

## 第1回かわさき教育プラン策定委員会学校教育専門部会論点整理

### 協議題ア「子どもたちの夢を育む学校教育活動のあり方について」

#### 想定される論点

- ・ 特色ある学校づくりの推進
- ・ 基礎基本の定着と学力の向上
- ・ いじめ・不登校の克服
- ・ 豊かな体験活動の推進
- ・ 教育ボランティアの充実
- ・ 国際理解教育、情報教育の充実
- ・ 特別支援教育のあり方
- ・ 外国人児童生徒の学習支援
- ・ より魅力ある高等学校づくり
- ・ 幼保連携、幼保一元化のあり方
- ・ 小中学校給食のあり方
- ・ 部活動のあり方（外部指導者の登用）

#### 委員から出た主な意見

- 子どもたちの夢を育むことについて
  - ・ 協議題アの施策をやると本当に夢が育まれるのか。ビジョンとか未来とか言う言葉がもっと出てきてもいいのではないか。
  - ・ 学校が地域をつくる、地域が学校をつくるという事をもう一度考えるべきである。
  - ・ 学校教育だけでは夢は育たない。学校が説明責任を果たしながら学校を開いていくことで地域が変わっていく。
- 学校の教育目標について
  - ・ 学校教育目標のような大きなビジョンを図式化したものがグランドデザインである。各学校に必要なだが、目指すものを見定めながらやっていくことが大切である。
- その他
  - ・ 特色ある学校づくりは地域の人自分たちの地域の学校としてつくっていくという気運を興していくことが大切である。地域の人たちが先生方とやっていこうとする施策を提示していくべきである。他の部会でも総合的につくっていくべきである。
  - ・ 基礎基本をおさえて、各学校で教育課程を編成して実施していくことも柱の一つに盛り込んでいく必要がある。
  - ・ 幼・小・中・高の成長過程でどういう姿で大人になっていくのか全体的な姿が見えない。売りになるものを考えてほしい。

### 浮かび上がってきた論点

- ・ 特色ある学校づくりをすすめるにあたって学校と地域社会のかかわりについて
- ・ 学校教育目標のグランドデザイン化について
- ・ 子どもたちの夢を育む学校教育のビジョンについて
- ・ 基礎基本を充実させた各学校における教育課程の編成について

すでに学校教育の諸施策が学校内で完結する時代ではない。特色ある学校づくりを推進していくには、地域と相互に連携をとりながらさまざまな活動を行わなければならない。

各学校が特色ある学校づくりをすすめるためには、学校が地域社会とどうかかわっていくのか、連携をとりながら具体的な施策が必要となってくる。

## 協議題イ「学校運営・施設設備のあり方について」

### 想定される論点

- ・ 学校教育推進会議と子どもの参加
- ・ 地域教育力の導入
- ・ 地域から信頼される確かな校長の登用
- ・ 校舎の新・改築における新たな整備方法の導入
- ・ 学校教育施設開放事業の拡充に向けた施設の管理方法
- ・ 学校運営上の危機管理のあり方

### 委員から出た主な意見

- 学校評価について
  - ・ 教育行政部会の「学校評価」は学校教育部会でも検討すべきではないか。
  - ・ 学校評価のあり方は再検討するべきで、それが学校運営のあり方に通じるのではないか。
- 学校教育推進会議について
  - ・ 学校が教育方針を外部に発信していないので、判断基準がなく評価ができないでいる。
  - ・ 開催時間が平日の日中なのでなかなか出席できない。開かれた会議にするには時間を変えるべきだ。そうすれば父親の参加が増える。
- 学校開放について
  - ・ わくわくプラザについて、学社連携の視点からも策定委員会、社会教育専門部会とすりあわせをしてほしい

### 浮かび上がってきた論点

- ・ 学校評価にかかわることについて  
市としてどんな項目でどう取り組んでいくかを整理していく必要がある。
- ・ 学校教育推進会議の運営について  
さらに積極的に推進していくよう各学校での取組について整理し今後の方向性を考える必要がある。
- ・ 学校教育施設開放事業の拡充に向けた施設の管理方法等について

学校ごとに特色を出し、独自の教育活動を行うことも視野に入っているが、そのためには学校が自立して目標を立て、教育活動を行なえるだけの力を備えていることが前提となると考えられる。

また学校評価や学校開放の動きに関しては他の部会との意見交換が必要となってくる。学校が自立的な運営を行うために、協議題ウの研修体系や教員配置との関係などからも議論できないだろうか。

## 協議題ウ「教員の指導力の向上について」

### 想定される論点

- ・ 教員の専門性の向上（初任研、経年研、管理職研、社会体験研の充実）
- ・ 教員の教育力の向上（教員の自主的、主体的な研修・研究活動の奨励と支援）
- ・ 校種を越えた人事交流による人材活用（中高教員の小学校指導等）

### 委員から出た主な意見

- 研修について
  - ・ 若手教員を養成しなければならない。また高齢になって意欲が落ちた人は適材適所へ配置換えをするなど、学校運営、学校評価とも絡んで考えなければならない。
  - ・ 若い教員の指導案の作り方について疑問を持っているし、危惧している。指導力に影響してこないか心配である。
  - ・ 組織やマネジメントに関する研修も若いときから必要である。そうしないと職場の中で1 + 1 = 2以上になっていかない。
  - ・ 不登校問題に関する教員の意識が低い。研修を進めていくにあたってこのような現実も考えてほしい。
- 教員配置について
  - ・ 専門性の高いスーパーティーチャーのような教員をニーズにあわせて配置していくことが求められているのではないか。
  - ・ 教員配置の工夫の仕方、運用の仕方も視野に入れていくべきである。

### 浮かび上がってきた論点

- ・ 教員の資質向上（教育力の向上）に関する研修の在り方について
- ・ 教員の専門性向上にかかわることについて  
教員の資質向上や専門性の向上のために研修の在り方を再考していかなければならない。
- ・ 教員の配置や運用の仕方について

教員の専門性、社会性や指導力の向上のために、初任者研修から積極的な研修体系を再考していかなければならない。他都市の例や教育行政専門部会協議題ウとの関連を図りながら議論をしていく必要がある。

また教員が指導力を発揮できる環境を整えることも考慮していく必要がないだろうか。例えば教員が指導に専念できるように雑務の縮小、簡素化など協議題イの学校運営のあり方と関わりながら指導力を強化できないだろうか。